

例会報告：2013年4月16日（晴れ）第1794回年通常例会

【続き】得た所得の一部を、恵まれない人たちに供給するボランティア活動の弱者保護をもって奉仕と考えるわけですから、職業をもって奉仕とは考えられないのです。弱者保護は、ロータリーでは社会奉仕の範疇であります。ですから、職業という視点からは奉仕とは考えられないのであります。所得を得る為に行動する時の心、即ち金儲けの心、世の為、人の為に奉仕する時の心とは全く次元を異にしているわけでありまして。ところがロータリーは、職業を営む心も奉仕の心も共に同じ一つの心。つまり金を儲ける為に考えるエネルギーと、世の為、人の為に考えるエネルギーとは、その向かっている方向は異なるが、その行動を起こす元になる心は一つの心だと考える。即ち一つの心をもって職業を営み、且つ奉仕すると説くのであります。言い換えれば、世の為、人の為に奉仕する心を持って職業を営むべし。と説くのであります。したがってこの考え方が必然的に職業を営む時に、世の為、人の為という倫理性を要求することに成らざるを得ないのであります。

ロータリーは倫理運動であると言いました。倫理とは、道徳、人間のふむべき道とあります。1905年にシカゴに於いて異業種の4人で始めました。各人は自業を大切に、お互いに意識し自らは自業の道徳を計り、ロータリーを大切にしてきました。二宮尊徳翁も“経済を伴わない道徳はたわごとであり、道徳を伴わない経済は犯罪である”と言っています。雪印、不二家、ミートホープ、吉兆、赤福等々による日付改ざん、産地偽装。正にロータリアンは絶対に行ってはならないのです。道徳心を持って、自業に取組み、奉仕の心を実践する。それにはまず仕事で相手に満足を与える事からのスタートであります。お客様に喜んで頂き、そのお礼の印がお代金である。とそう感じなければなりません。そして利益を出し、職業奉仕から社会奉仕へと進む。それがロータリアンの正しい姿だと感じます。職業奉仕は難しい、分からないと言いますが、異業種の仲間と共に、与えられた職業を道徳を持って実践し、世の為、人の為の奉仕をする姿が求められていると思います。健康に留意しいつまでもロータリアンでいたいと強く感じています。

◆ 結婚記念日

大木 清 (4月20日)

◆ ニコニコ箱

大木 清委員

	ニコニコ箱	累計	目標
4月16日分	10,000	816,040	1,300,000

* 結婚記念日

大木 清さん…結婚記念日祝いありがとうございます。

* その他

指導者育成委員会（河野秀雄さん）…担当で本日卓話をさせていただきます。よろしくお願ひいたします。

太田 忠さん…当クラブゴルフコンペでフォーカス当りました。小楠君、小嶋会長のお蔭です。なんと2万円です。

小嶋 章司さん…11日のゴルフは楽しかったです。やはり健康でなくてははいけませんね。一緒に廻った太田さん、小川さん、齋藤さんありがとう。

RAC
会員募集中

相応しい会員をご紹介ください！

■ ■ ■ 今後のメーキャップ情報 ■ ■ ■

-2013年4月-

- ▶ 24日(水) 小田原北 報徳会館 12:30
「卓話:会員卓話」
- ▶ 25日(木) 小田原中 報徳会館 12:30
「卓話:クラブ研修について/クラブ・フォーラム」
- ▶ 26日(金) 湯河原 ニューウエルシティ湯河原 12:30
「卓話:会員卓話」
足柄 報徳会館 18:30 M.U.受付なし
「創立記念家族親睦夜間例会」
- ▶ 27日(土) 小田原城北RAC イトーヨーカドー前
13:00~15:00
「移動例会:献血呼びかけ」
- ▶ 29日(月) 小田原 休日休会
「卓話:・・・」
- ▶ 30日(火) 箱根 5週目休会
「卓話:・・・」

-2013年5月-

- ▶ 1日(水) 小田原北 休会
「卓話:・・・」
- ▶ 2日(木) 小田原中 特別休会
「卓話:・・・」
- ▶ 3日(金) 湯河原 休日休会
「卓話:・・・」
足柄 定款による休会
「卓話:・・・」
- ▶ 6日(月) 小田原 休日休会
「卓話:・・・」
- ▶ 7日(火) 箱根 宮ノ下富士屋ホテル 12:30
「卓話:会員卓話」
- ▶ 8日(水) 小田原北 報徳会館 12:30
「卓話:会員卓話」
- ▶ 9日(木) 小田原中 報徳会館 12:30
「卓話:地区協報/クラブ・フォーラム」
- ▶ 10日(金) 湯河原 ニューウエルシティ湯河原 12:30
「卓話:会員卓話」
足柄 おんりーゆー 12:30
「卓話:会長エレクト」

【小田原城北ロータリー・クラブ】
事務局：〒250-0211 小田原市鬼柳172-9
電話：0465-37-1222 FAX：0465-37-7377
URL：http://www.odawarajhrc.jp
Mail：info@odawarajhrc.jp
例会場：小田原卸センター内会議室
創立：1976年4月2日 承認：1976年5月8日
例会：毎週火曜日 12:30~13:30
クラブ会報委員会
監修：久保田 知子
編集長：須賀 俊和
コピーライター：大川 誠
デザイン：小林 和彦
フィールド：須藤 公司・小楠 雅昭

会員数：49名



国際ロータリー第2780地区

小田原城北ロータリー・クラブ



【R. I. 会長】
田中 作次
【R.I. 2780地区ガバナー】
菅原 光志
【第9グループガバナー補佐】
鈴木 悌介



【会長】小嶋 章司
【副会長】中野 明
【幹事】久保田 知子
【副幹事】大川 久弥
【会場監督】清 康夫

奉仕を通じて平和を
PEACE THROUGH SERVICE

本日の例会：通常例会（第1795回）

会場：小田原卸センター内会議室

日時：2013年4月23日 12:30~13:30

司会：大川 久弥 副幹事

12:30	開会点鐘：小嶋 章司 会長 ローターソング斉唱 「それこそロータリー」 スピーカーおよびビジターの紹介 慶事祝福 会長挨拶 幹事報告／出席報告／委員会報告 同好会報告／ニコニコ箱
13:00	担当：次年度執行部 卓話：地区協議会出席者 「地区協議会報告」
13:30	閉会点鐘：小嶋 章司 会長

2013地区協議会

日時：2013年4月21日（日）13:00~17:10

会場：学校法人 麻布獣医学院 麻布大学

出席人数：14名



今見つめ直そう不易なるものと流行

【今後の例会・卓話スケジュール】

4月30日 休会

5月7日 通常例会 12:30

担当：プログラム委員会

卓話：西 寛会員・露木 清勝会員

「私の10代」

5月14日 移動例会 12:30

担当：指導者育成委員会

卓話：施設見学会

「大相撲五月場所観戦・ちゃんこ鍋の夕食」



5月21日 通常例会 12:30

担当：長期ビジョン策定委員会

卓話：杉崎 勝成委員長

「未定」



例会報告：2013年4月16日（晴れ）第1794回年通常例会

会場：小田原卸センター内会議室
時間：12:30～13:30

❖ 会長挨拶

「語り合いの場としてロータリー」

小嶋 章司 会長



人間にも、物事にも「ほんね」と「たてまえ」との二つの顔があると思います。「ほんね」とは本来の姿であり、人間「ほんね」を通すのはむずかしい。「たてまえ」とは社会状況を意識または考慮したよそいきの顔です。ロータリーにとつて綱領だとか四つのテストだとかいうのは「たてまえ」と同時に「ほんね」でなければ意味がないと思います。ロータリーの存在を社会に認めてもらうためには、そこに表裏があってはならないと思います。

しかし「たてまえ」は「たてまえ」として、ロータリーを身近なところで感じる「ほんね」は、思いやりと助け合いに生きようとする善意の魂が孤独を感じ、同志との語り合いの場を持ちたいと願う心情にもあります。

戦前村田省蔵氏（実業家・政治家・大坂ロータリークラブ初代副会長）が「ロータリーの例会は銭湯だ、一週間の奉仕の疲れとよごれを洗い流すために集まって来るのだ」と言われたことがあったそうです。ポール・ハリスも米山梅吉氏も、みんなこの心情からスタートしたのだと思います。

欧米のロータリーは「ほんね」がまかり通り「たてまえ」がひっこむこともあるようです。それにひきかえ日本では、けなげにも「たてまえ」ばかりが強調され「ほんね」の部分は軽視されがちであります。なにもかも形骸化と、味気ない感じがすることがあるのはそのためであるかもしれません。

語り合いの場としてのロータリーをとりもどしたいと願っている人もあるのではないかと思います。むずかしい問題ですが戦前の諸先輩が唱えた「裸になって語り合う」場ということは今一度考え直してもよい時期にきているように思われるのは私だけでしょうか？

❖ 幹事報告

久保田 知子 幹事



1)4月14日（日）、GSEの来日チームの歓送会と派遣チームの壮行会に小嶋会長と行ってまいりました。GSEメンバーは昨日帰られたそうです。
2)5人グループですが、2回行って下さいますようお願い致します。
3)前回もお願い致しましたが、例会欠席の方は前日の2時までに事務局の方に必ずご連絡下さい。

❖ 出席報告

村瀬 雅實委員

出席報告	会員数	出席	M.U	出席率
4月16日	49(47)	38	0	80.85%
4月9日	49(45)	41	0	88.89%
4月2日	49(46)	39	2	89.13%

【欠席者】 9名
石橋 徹、上田 博和、内山 修一、柳井 渉、鋤持 悟、小楠 雅昭、田代 博信、石内 正彦、高橋 哲也
【今回MU】 なし
【前回MU】 増加なし
【前々回MU】 増加なし

❖ 委員会報告

中野 明副会長

先程幹事報告でもありましたが、一昨日の日曜日に江の島でGSEの歓送会と壮行会をやっていただきまして、いよいよ20日の土曜日からアメリカの方へ行って参ります。ちょうど1ヶ月留守になりますのでその間例会は欠席となりますのでよろしくお願い致します。また帰って来ましたら、6月18日にGSEの報告をさせていただきますので、またその時はよろしくお願い致します。

金山 慶昭次年度幹事

次年度の委員長並びにプロジェクトリーダーの方々へお願いですが、次年度の活動計画書を来週の例会時までには書類かメールで事務局の方へ提出願います。また今日の日曜日の地区協に参加される方へお願いです。集合時間は10時小田原駅の西口へお願いします。

指導者育成委員会・・・石崎 孝委員長

5月14日に開催されます施設見学会についてお願いをさせていただきます。参加者は現在30名ということで、小田急トラベルの方で相撲の予約をさせて頂いております。30枚につきましてはキャンセルがきかないということで、行かれなくなった方は8000円のキャンセル料が掛かりますので、その辺はご協力をお願いしたいと思います。当日の会費につきましては諸星さんの方で集めさせて頂いておりますので、早めにお願致します。

❖ Table Flower

- 千鳥草
- 枝スイトピー
- ナデシコ

千鳥草の花言葉は「信頼」「軽快」
ナデシコの花言葉は「ほのかな喜び」「門出」



❖ クラブフォーラム

「職業奉仕」

指導者育成委員会 石崎 孝委員長



まず職業奉仕につきまして、どうして職業奉仕という理念が発生したかということ、ロータリークラブは1904年にポールハリスがアメリカでつくられました。その時のアメリカの時代背景が分かればと思います。

1904年という多くの民族がアメリカンドリームを求めて来ました。そうしますとお金が一番だという資本主義が出てきました。そんな中ロータリークラブが出来たのですが、ロータリークラブも当時は会員の事実上の利益の向上、会員間の事業上の利益の向上と親睦の充実ということを目指してきました。そして爆発的に全米に、全世界に発展していったのですが、それはおそらく会員間の仕事のやり取りで、融通を利かして金儲けをしようとする道具に使われているところがありました。それではいけないということで、アーサー・フレデリック・シェルドン（経営哲学者）が唱えたのがロータリーの標語になっています。「最も奉仕する者が最も報われる」です。これが、職業奉仕の理念の一つになってきています。当時奉仕というのは、アメリカでは兵役の義務と、奴隷は主人に仕えるというのが奉仕だというように考えていたようです。シェルドンがそれではいけないのだと哲学的に唱えたのです。これが社会奉仕の決議の2334という社会奉仕の基になっております。それともう一つロータリーの標語であるのが「超我的奉仕」であります。これはフランクリン・コリンズがその後に発表したものですが、フランクリン・コリンズはキリスト教の宗教哲学者であり、心の中の職業奉仕というものを訴えたのです。

シェルドンが言った事を書きましたので読ませていただきます。「自分の幸せは自分の周りにいる人々の幸せと決して無関係ではない、良質な職業人とは、自己改善を重ねて自分の職業を健全に守ると共に、取引先、下請け業者、従業員、顧客など自分の事業と関係を持つ全ての人々に幸せをもたらす事である。そしてその心を持って事業を営めば、必ず最高の利益が得られる事を自分の職場で実証することによって、奉仕の精神の必要性を地域全体の職業人に伝えて行かなければならない」という考え方が職業奉仕であると、シェルドンの文献に書いてあります。

日本人は職業奉仕という言葉はロータリー用語で中々理解しがたいのですが、日本人は民族的に自然に職業奉仕をやっているのです。ですので、日本のロータリアンはとても職業奉仕を重んじるというか、大切にしていると良く聞きます。ロータリーは職業奉仕が無ければロータリーではないと思います。これから河野さんが色々なお話をさせて頂けると思いますので、ぜひその辺の心を汲んで頂いてご理解を深めて頂ければと思います。

河野 秀雄委員



私は石崎委員長とはちょっと違う観点から、職業奉仕の感じていることとお話させて頂きたいと思います。私は立派な事は解りませんが、実際に実践している訳ではありませんので自分が書いてきたのは、第2680地区の深川純一さんというバスターガバナーの原稿を抜粋させて頂いて、とても良いお話なので皆さんにご紹介をしたいと思います。職業奉仕は難しい、難しいと一般に言いますが、確かにその通りで、私が9年間地区に出向させて頂いた時に、地区の職業奉仕委員長がまず冒頭に言うのが「何やって良いんだよ、職業奉仕ってどうやってやったら良いんだよ」と言います。職業奉仕というのは、ロータリーの専

門用語で辞書にも載っていません。ですので、それだけ難しいのですが、深川純一さんのおっしゃるような解釈の仕方ならば、そんなに難しくないので私は思っております。職業奉仕という言葉は、綱領の2番目が職業奉仕だと私は思っております。1番最初はクラブ奉仕、2番目が職業奉仕、3番目は社会奉仕、4番目が国際奉仕になると思います。

職業奉仕に限っては中々目に見えないため難しいのだと思いますが、深川純一さんの講演の内容を皆さんにお知らせをしますので、違った視点から考えて頂ければと思っております。「職業奉仕をまず理解して頂くためには、どうしても心に留めておいて頂きたい事があります。それはロータリー運動というものは、倫理運動であるという事です。即ち、ロータリークラブは寄付団体でも、慈善団体でも、ボランティア団体でもありません。ロータリアンに奉仕の心を授け、倫理を提唱していく団体である。即ち、ロータリアンの心の開発を第一義とする団体であります。

したがって例えば、街角にタバコの吸い殻が落ちていたとします。ロータリアンとしては、町を美しくする為にそれを避けて通る事は出来ません。必ずその吸い殻を拾うでしょう。しかし、ロータリーはそこにロータリーの本願はないと言います。ではロータリーの本願はどこにあるのでしょうか。それは、ロータリーの本願は、「タバコの吸い殻を捨てない人を育てるところにある」というのであります。人を育てる事、道徳を守る人間を作る事。その事によって世の為、人の為に動いて行こうとロータリーは言うのであります。見方を変えればそれがまさにロータリーの倫理運動だという事を意味するのです。

この点をとらえて、ある学者は「ロータリーとは人類文化史が20世紀の時代に刻印を打った、職業人の最も優れた倫理運動である」と断言しています。ポールハリスという青年弁護士の脳に宿った一滴の発想。即ち一業一会員制の発想であります。（弁護士ポールハリス、鉱山技師シルベスタ・シール、洋服商人ハイラム・ショーレー、石灰商ガスターバス・ローア）これが組織の原点であります。そして一業一会員制という、一滴の発想のもとに人々が集まり、やがてここに様々な思想や原理が生まれたのです。

ロータリアン以外で、職業奉仕の原理を実践している人は沢山あります。二宮尊徳翁もその一人であります。実はロータリーも1927年になって初めて、その原理の実践を職業奉仕と名付けたに過ぎません。ロータリーの職業奉仕は、例会における知恵の交換を基にした、血みどろの実践の裏打ちがあり、これがロータリーの職業奉仕の独自性を示すものなのであります。ロータリアン以外の人の職業奉仕の原理の実践には、例会出席による発想の交換という実践の裏打ちがないのであります。ロータリアンの職業奉仕は例会出席が大前提であります。職業奉仕を実践するには、自分の仕事を一生懸命しなければなりません。職業奉仕という言葉は、ロータリーの専門用語であります。職業というものは、私たちが生きて行く為の所得を得る為の手段で、即ち、平たく言えば金儲けの手段であって、これは自分の為のものであります。

一方奉仕というものは、世の為、人の為のもの。即ち、自分以外の人の為のものであり、この様にエネルギーの方向が全く正反対の二つの言葉を一つに合体させて、職業奉仕と言っているのですから、解りにくいのも無理はないかも知れません。一体自分の為のものである職業が、人の為のものである奉仕のテーマになり得るのであるのでしょうか。職業を営む事、即ち平たく言えば、金を儲ける事が、何故、世の為、人の為の奉仕となるのか。職業奉仕とは、職業を営む事、即ち、所得を得る事によって奉仕と考えるのであるから、職業を奉仕と考える為には一体どの様に考えれば良いのか、であります。職業はあくまでも自分の為のものであって、そこには世の為、人の為という他人の為の考え方は一切入る余地はありません。職業と奉仕はそれぞれ別の世界に存在する。と考える事になります。この考え方からすれば、職業を営む事が同時に奉仕と成るとは考えないのでありますから、世の為、人の為に奉仕をしようとするれば職業以外の方法を取らざるを得ません。職業によって【**続く**】